

令和元年度 学校評価実施報告書

学校番号 37 学校名 県立国府台高等学校 課程名 全日制普通科

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>① 学校生活への生徒、保護者の満足度は 85.9%、93.7%であり、昨年度の数値(83.8%、93.4%)をどちらも上回った。</p> <p>② 開かれた学校づくり委員会は予定通り3回開催し、代理出席を含め延べ 25 人の委員が出席し、多くの建設的な意見をいただいた。</p> <p>③ ホームページの「校長だより」の更新回数は現時点で 118 回(昨年度 119 回)更新した。また、学校だより、PTA会報の地域への配布も滞りなく行った。</p> <p>④ 職員面談は、当初面談と最終面談を実施する中で全員と授業改善等について話ができた。</p> <p>⑤ 昨年度の評価を反映させ、学校改善に取り組んでいる。</p> <p>⑥ 毎月出退勤時刻の調査を行い、在校時間の多い職員は校長との面接を行い、その内の6人の職員に対し、医師との面談を実施した。 学校評価アンケートでは、今年度新たに「働き方改革を意識して業務にあたっているか」の項目を設け、肯定的回答が67.8%であった。しかし、学校としての取組に対しては、否定的回答が61.4%から57.7%に減ったものの依然としてある。</p>	<p>① 働き方改革への理解を得ながら、限られた時間の中でどの教育活動を優先するかを見定め、満足度を維持していく。</p> <p>② 行事予定等を積極的に発信・周知することで、来校・授業見学及び地域活動の機会を増やし、協力を仰ぐ。</p> <p>③ ホームページの更新、一斉メールの活用、保護者会、PTA会報の地域への配付により、日頃の教育活動を保護者や地域に広く周知していく。</p> <p>④ 引き続きスケジュールに余裕を持たせ、職員とは時間をかけ、職員の素直な思いが引き出せるよう丁寧な面談を行っていく。</p> <p>⑤ 同じ質問項目・回答群を3年間実施することで、経年結果を分析・検討して、職員の共通理解の下、今後の学校改善に活かしていく。</p> <p>⑥ 引き続き、職員の意識改革に向けての更なる方策の実践及び職員間の業務均衡化に向けてのシステム作りを早急かつ慎重に行い、業務改善を図っていく。次年度も重点目標の一つに入れる。</p>
学習指導	<p>① 生徒授業評価アンケートを7・12月に実施。授業満足度は、前期が 90.2%(前年度 90.1%)、後期が 91.0%(前年度 92.8%)であり、目標を上回ることができた。</p> <p>② 学年平均は漢字テスト(満点 20):1 年 18.0、2 年 16.9、英単語テスト(満点 20):1 年 17.6、2 年 17.3。夏季休業中の講座は全学年で延べ 1229 人の生徒が参加した。進学補講は年間で延べ 20 講座 906 人が受講し、23 人の教師が指導した。</p> <p>③ 初任研、フォローアップ研、ステップアップ研で研究授業を延べ 12 回(前年度 13 回)実施した。</p> <p>④ 5/31、10/5、11/20は全員が授業公開を行い、校外から延べ240名(前年度310名)が参観した。また、初任者は市川一中の授業参観をした。</p>	<p>① 教師と保護者の間で満足度に 10 ポイント程度の開きがある。生徒の実態に即した課題量の検討や授業時の声かけ等の工夫により、満足度の向上に努める。</p> <p>② 家庭学習の促進に向け、朝のSHR前に行う英単語テストと漢字テストの効果的な活用を今後も検討する。</p> <p>③④ ベテランから若手まで一体となり授業研究を行い、授業改善や評価方法・評価の在り方についての検討及び協働・共有にむけた取組を考えていく。</p>
生徒指導	<p>① 遅刻指導の延べ人数は1年生 11 人(前年度 7 人)、2 年生 11 人(前年度 29 人)、3 年生 33 人(前年度 42 人)であった。また、毎朝の校門指導、年2回の定期の登下校指導の他、国府台駅において指導を行い、通学マナーの向上に努めた。</p> <p>② 千葉心理研究所の光本先生に講演を依頼し、思春期の精神疾患の理解と対応について研修を行い、55 名が参加した。</p> <p>③ こうのとり祭り、地域清掃、防災訓練にボランティアとして延べ 126 人(前年度 130 人)が参加した。</p> <p>④ 4月に生徒面談週間(10日間、前年度 7日間)を設定し、ほとんどのクラスで昨年同様全員と面談をすることができた。</p> <p>⑤ 方針に基づき委員会で 2 件(前年度 2 件)認知した。</p> <p>⑥ 特別支援教育委員会の定期開催により合理的配慮の提供に関して確認を行い、職員間での共通理解を図った。また、今年度新たに1名の生徒に対して保護者面談を行い合意形成を図った。</p>	<p>① 引き続き、遅刻・挨拶・通学マナーを全体で指導・強化していく。</p> <p>② 引き続き、生徒の実態に即した外部講師の選定を行い、教職員が共通理解をもって指導にあたるようにする。</p> <p>③ 各種ボランティアの周知及びボランティア活動証明書発行など生徒が意欲的にボランティア活動に参加できる体制を整える。また、「地域との交流」という意識をしっかりと持ち、取り組むよう指導する。</p> <p>④ 生徒情報を学年及び授業担当教員間で共有し、一体となり対応を進める。生徒の小さな変化を見逃さないそして風通しの良い職員集団を構築する。</p> <p>⑤⑥ いじめ防止の取組及び特別支援教育の推進については、引き続き生徒・保護者に周知し、理解を求めていく。</p>

<p>キャリア教育</p>	<p>① 進路だよりは、現在までに学年毎で延べ 18 号発行した。各学年の進路講演会は6回実施し延べ 890 名の保護者が参加し適切な情報を提供した。 また、キャリア指導への生徒、保護者の満足度は 90.9%、87.6%であり、昨年度の数値(90.2%、86.1%)をどちらも上回った。 ② <u>3年生の大学説明会は、28 大学(前年度 33 大学)が、2 年生の模擬講義には 18 大学(前年度 18 大学)が来校した。</u> ③ 1年生は大学・企業訪問を行い、8大学40社を訪問。パワーポイントを使って報告会をした。2年生は中国・関西地方の課題解決学習として現地でポスター発表、帰校後成果物として報告集をまとめた。</p>	<p>① 引き続き、保護者対象の進路講演会では、外部講師、本校進路指導部員それぞれの利点を生かして最新の情報を提供していく。また、講演会の時期についても検討していく。 ② <u>将来の目標及び大学等で学びたいことを明確にし、入学後も自身が活躍できる進路選びができるよう指導する。外部による講義は本校生徒のニーズにマッチした大学・講師等を招聘する。</u> ③ プレゼンテーション技術の向上に努め、聞き手の立場に立った発表ができるよう指導する。</p>
<p>特色ある教育活動</p>	<p>① 「学力向上」をテーマとした市川一中との交流は昨年度より低迷した。しかし、地域清掃などで市川一中の生徒と協働することができ、交流を図ることができた。 ② 夏休み指導体験教室に延べ 53 名、書き初め指導に延べ81名の生徒が参加し、小中学生に指導した。 ③ 千葉商大の図書館と利用協定を締結し、昨年よりも多い 206 名の生徒が利用している。国府台コンソーシアムは総会を1回、幹事会を2回、地域連携、防災の分科会をそれぞれ4回実施した。 ④ 地域の行事に書道部、ダンス部が、千葉商大大学祭に書道部、美術部が、地域の防災訓練に生徒会が協力した。</p>	<p>① 教員の授業実践交流も含め「学力向上」にむけた交流の場を設定する。また生徒同士の協働の場を引き続き作り、生徒間の交流も併せて活性化する。 ②～④ 地域連携については、Web発信だけでなく、保護者会やPTA会報などでも紹介することで、保護者への周知及び認知度の向上を目指す。</p>

(第3号様式-2)

学校評価の公表について (手段・時期・内容等)	令和元年度第3回「地域に信頼される開かれた学校づくり委員会」(1月)、職員会議(2月)を経て、ホームページ上に公表する。
----------------------------	--

	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ① 不満足の原因を記述させるとよい。 ② 国府台高校と連携して地域の子供を育てていきたい。 ③ HPで情報発信しているが、それすら知らない親もいる。学年進路講演会には関心があるので多くの人に参加する。その時に情報発信するとよい。 ④⑤ 職員との面談及び学校評価をしっかりと反映させ、学校改善に取り組んでほしい。 ⑥ 先生方には、まだまだ働き方改革に取り組んでいると思われていないのが残念。週に一回は早く帰れる日があると良い。長期休業中にテレワークを導入するのはいかがか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校指定セーターの導入についても検討していく。 ② 開かれた学校づくり委員会では地域連携について考える機会を増やし、学校間及び地域との交流を活性化させる。 ③ HPは校長のページだけでなく全体の更新を増やす。また、保護者会等で広く情報発信をしていく。 ④⑤ 経年結果の分析・検討から課題を見出し、職員が一丸となり、学校改善に取り組む。 ⑥ 職員の意識改革に向けての具体的方策を立て、業務改善を図る。次年度も重点目標の一つに入れる。
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業態度はどんどんよくなっていると感じられた。学年が上がるにつれ先生からの一方通行になっている。生徒間で交流ができる授業を取り入れることも必要である。 ② 英語の外部試験を文科省が見送ったが、国府台高校では英語の学力をしっかりと把握していくほしい。 ③④ 職員の交流を活性化させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 評価方法・評価の在り方についての検討及び共通理解により、授業改善を図る。 ② 課題テストや英単語テストの経年比較等による実態把握及び課題の明確化により、効果的な実践を検討していく。 ③④ 新体系によるキャリアステージに応じた研修を活性化させる。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 道路が狭く「ちょっとどいてくれる」と言うと生徒は「すみません」と言ってくれる。一方混雑したバスなどで自分が降りたいとき「すみません」の一言が言えない。自分の意志を伝えられるようになってほしい。 ② 様々な病や悩みを抱える生徒への対応は大変だが、共通理解が図れるといい。 ③ ボランティア活動の目的の一つに「地域の人との交流」があるが、生徒には理解されていないようなので、事前の指導をお願いしたい。 ④⑤⑥ 引き続き、生徒ひとり一人にしっかりと目を配り、丁寧な対応を続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 日頃から、自ら一歩先を考えて行動できるように、ホームルームや学年・全校集会等通じて、指導する。また、普段の授業においても、自分の考えを発表する場面を多く取り入れるようにする。 ② 引き続き、生徒の情報を共有する機会を数多く設定し、スクールカウンセラー等も交え生徒理解に努め、全職員で指導にあたる。 ③ 生徒には、本校でのボランティアの意図や目的をしっかりと周知した上で、活動を支援する。 ④⑤⑥ 生徒にとって安心・安全な環境を提供するためにも、丁寧な指導及び風通しの良い職場環境により早期発見・早期対応に努める。
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ① 大学受験の環境作りに努めている。 ② 生徒・保護者の満足度も高く、キャリア教育に関する取組は良好である。 ③ 校外学習では調べた内容をいかに相手に伝えるか、その力を養ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き、保護者対象の進路講演会では、外部講師、本校進路指導部員それぞれの利点を生かして最新の情報を提供していく。また、後援会の時期についても検討していく。 ② 将来の目標及び大学等で学びたいことを明確にし、入学後も自身が活躍できる進路選びができるよう指導する。外部による講義は本校生徒のニーズにマッチした大学・講師等を招聘する。 ③ プレゼンテーション技術の向上に努め、聞き手の立場に立った発表ができるよう指導する。

<p>特色ある教育活動</p>	<p>① 一中との交流が低迷した原因は、トウキョウサンショウウオの観察が先生の異動によりできなくなったことと、中高合同の道徳授業ができなかったことである。その分、地域清掃に力を入れた。中高は細く長く交流を続けたい。地域清掃を教育課程に入れて参加したい。</p> <p>② 中学校では、今後も指導にきてくれることを望んでいる。</p> <p>③ 「大学との連携＝地域連携」と捉えれば、国府台コンソーシアムのフォーラム、千葉商大の図書館連携など、地域に向けたイベントを保護者に届けられればいいのではないか。国府台コンソーシアムでコミュニケーションがとれると地域連携が活性化する。</p> <p>④ 今は、大学入試にもボランティア活動の経験が求められており、地域連携は幅広く据える必要がある。</p>	<p>① 市川一中とは「学力向上」をテーマとした交流に限らず、様々な生徒間交流を活性化させ、連携を推進する。</p> <p>② 「お兄さんお姉さんと学ぼう事業」の指定を継続するとともに、教職に興味・関心のある生徒の参加を増やす。</p> <p>③ 保護者は、「地域＝住んでいるところ」と考えがちであるため、高校では「地域＝高校所在地周辺」という認識を持ってもらう、そのためにも日頃の情報発信の力が必要である。</p> <p>④ 生徒には、ボランティアの意図や目的をしっかりと周知した上で、活動を支援し(前場)、地域の歴史や環境等、地域を知る機会を作る。</p>
-----------------	---	--